

(別紙)

木質バイオマスの新利用技術アドバイザーリーグループ  
第1回会合 アドバイザーからの主な意見等

平成20年5月20日(火曜日)に開催された木質バイオマスの新利用技術アドバイザーリーグループ第1回会合において、アドバイザーから以下の意見等が出された。

1. 木質バイオマス利用の考え方について

- ・石油資源のない日本では、豊富な木材資源を積極的に利用していくことが重要。
- ・最初からエネルギーとして利用するのではなく、まずは木材として最大限に有効活用した後エネルギーに回すという、カスケード型の利用が理想。
- ・木質バイオマスを利用する場合、簡単に安く液化できるなら、石油と全く同じ形で利用するのではなく、視点を変えて、その特性に合わせた使い方を考えるのも良い。

2. 技術分類について

- ・よく整理されている。
- ・部分分解による技術、例えば急速熱分解などによる液化といったような技術は、エネルギー的にも有利であり、視野に入れるべき。
- ・木材をセルロース、ヘミセルロース、リグニンといった成分に分けずに、全てをプラスチック製造に利用するという技術もある。
- ・この技術分類は、リグニン、セルロース、ヘミセルロースといった成分に着目した分類となっているが、木材から生成される気体、液体、固体といった生成物の形態に着目した分類の仕方もある。

3. 森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業について

- ・林野庁が行う事業としての特徴を明確に打ち出し、カーボンオフセットの視点や林業・木材産業の再生、地域振興等、林野庁としての大きな政策の中で、この事業を展開していくべき。また、木材の特質を生かして、日本の化学産業を根本的に変えていくような事業にして欲しい。
- ・5年間で実用化に結びつけるためには、募集する側が具体的なイメージを持つことが必要で、例えば対象樹種をスギとか針葉樹などに限定するのも手である。
- ・公募では1件1件応募してくることになると思うが、まとめると良いものもあろうかと思う。近い技術でまとめ、また周辺技術も総合的に取り上げられると良い。
- ・木材の総合利用という観点から言えば、リグニンを燃料として利用することも、石油が高騰している現在、評価すべきと考える。